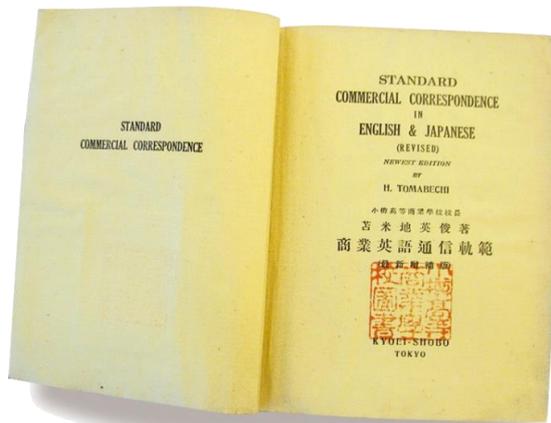


外国語への招待

2020年度



▲大正12年に行われたフランス語劇「青い鳥」。右端が小林多喜二、隣が伊藤整。



▲「商業英語通信規範（最新補遺版：1932）」
著者は本学3代校長の苫米地英俊先生。

小樽商科大学言語センター

外国語への招待

目次 CONTENTS

外国語への招待	1
外国語の履修について	2
言語センターへようこそ	3

昼間コース

英語	4
ドイツ語	6
フランス語	8
中国語	10
スペイン語	12
ロシア語	14
朝鮮語	16

夜間主コース

英語	18
ドイツ語	19
フランス語	21
中国語	23

外国語への招待

言語センター長 尾形弘人

実学、語学、品格

言語センター

新入生の皆さん、小樽商科大学へようこそ。赤レンガの正門から入ると、左手の広場に立つ渡遺龍聖先生が皆さんを迎えてくれます。本学の初代校長で、近寄って読む碑文には「実学、語学、品格」とあります。およそ100年前、商大が建学して以来の教育理念です。商業の実際を学ぶのですから、「実学」重視は当然の事でしょう。また、人としての「品格」を欠いては、取引相手の信頼は得られません。しかし、商業の学校なのに、何故、「語学」なのでしょうか？

本学が誕生した明治末期は、富国強兵のため、世界に通用する商業人の育成が急務でした。今で言う「グローバル人材」で、その教育に当たったのが、本学を始めとする高等商業学校でした。国際人を育てるので、当然、どの学校も語学には力を入れました。とりわけ本学は、いち早く多くの外国人教師を招き、また、英、独、仏に加え、中、西、露もメニューに揃えました。本学が「北の外国語学校」と称された所以です。

北の外国語学校

例えば、「コレポン」という英語の授業がありました。教科書は第3代校長の苫米地先生の『商業英語通信規範』で、700ページを超える大著でした。毎回の授業では、「見本請求」、「新規契約」、「苦情処理」など、外国との様々な取引で必要となる、英文通信文 *correspondence* の暗唱・作文が課せられたようです。これは他校の実践英語の手本ともなり、また、相当に鍛えられた学生は、当然、就職では俄然有利でした。

「コレポン」が実践語学の象徴であるとすれば、「外国語劇」は教養語学の結晶と言えます。これは、外国人教師の指導の下、年に一度、学生たちが小樽市民を前に演じたものです。貴重な写真が残っています。小林多喜二と伊藤整が、メーテルリンクの『青い鳥』を演じたフランス語劇です。本学が輩出した二人の文豪は、実践教育だけに偏ることなく、教養を重んじ、文芸の香り漂う校風から生まれたのです。

「コレポン」と「外国語劇」は本学の外国語教育の原風景のようなもので、語学重視の伝統は、現在、「言語センター」に受け継がれています。設置されたのは1991年で、もう四半世紀も前ということになります。振り返ってみれば、その年は、ソビエト連邦の崩壊や多国籍軍の対イラク湾岸戦争など、今日のグローバル化の発端となった年でした。

その後、1993年にはEUが発足し、また、windows95の登場により、世界は本当に狭いものとなりました。以来、アメリカ同時多発テロ、中国の台頭、リーマンショック、アラブの春、イスラム国、ブレグジット、トランプ旋風、初の米朝首脳会談など、ニュースは瞬時に世界を駆け巡ります。言語センターの考察対象は、こういった異文化・多文化がダイナミックに交差する世界を突き動かす言語の力に他なりません。

まだ4年もある、が、もう4年しかない

さて、入学後、皆さんは何語を学びますか。英、独、仏、中、西、露、韓からふたつ、どれを選んでも構わないのですが、ひとつは英語でしょうか。実際、母語人口だけで4億人、計58カ国21地域の公用語です。しかし、英語の学習は必須でも、英語万能主義に陥り、豊かで多様な世界の在り方が見えなくなるようでは困ります。

例えば、空の「虹」。日本ではご存じ7色ですが、「rainbow」は6色で、フランス語の「l'arc-en-ciel」は5色。日本も昔は5色で、沖縄地方では明と暗の2色だったようです。このように、同じ自然現象ですら、言語はそれぞれ別様に切り分けるもので、言語こそが文化や思考の違いを生むのです。

日本語だけでは足りません。英語を加えても、まだ足りません。もうひとつ別の視座があって初めて、世界の多重性・複層性は姿を現すのです。ワールドワイドに感覚を研ぎ澄まし、貪欲に、本気で外国語に取り組みしましょう。卒業までに4年もあります。しかし、もう4年しかないのです。

言語センターへようこそ

小樽商大の前身、小樽高等商業学校は、「実学、語学、品格」の教育理念から、専門の商学は言うに及ばず、外国語教育および教養教育においても、北日本屈指を誇っていました。実際、授業でシェークスピアを読ませるような商業学校などどこにもなく、また、「英語、ドイツ語、フランス語」のみならず、大学ではあまり教えていなかった「中国語、ロシア語、スペイン語」を、国際貿易には必要だという理由で教育し、本学の外国語教育は、その充実ぶりから「北の外国語学校」の異名をとるほどでした。小林多喜二、伊藤整という 20 世紀を彩る作家たちを輩出したのも、実学一辺倒に偏らない教養教育があったればこそ事でした。

二人の偉大な先輩が卒業しておよそ 70 年後の平成 3 年、本学の外国語教育の伝統を太く引き継ぐため、現在の「言語センター」が設置されました。以後、異文化交流研究をメインテーマに、外国語教授法や教材の開発、交換留学に向けた学習支援など、国際化を進める本学の推進力として着々と成果を上げてきました。最近では ICT を活用した e-learning や Blended learning により、21 世紀のグローバル世界に対応した進歩的な語学教育を目指しています。

さて、言語センターには、語学用教室の LL（ランゲージ・ラボラトリー）教室 2 室、BL（ブレンデッド・ラーニング）教室 3 室、CAL（キャナル・ラボラトリー）、国際交流スタジオ（BL4）があります。LL 教室は主に英語の TOEIC 対策授業に活用され、BL 教室では「online と対面授業」を組み合わせ合わせた授業が行われています。また、海外の大学と衛星回線を結んで、双方向通信授業なども行われています。

また、総合視聴覚施設のマルチメディア・ライブラリーでは、外国（語）に関する豊富な資料を、AV 機器や PC を備えた個人ブースで視聴することができます。音声教材、映画作品、ラジオやテレビ講座、英字新聞、多読・速読用の洋書、TOEIC や英検等の問題集など、様々な資料・教材を多数揃えていますので、是非、活用してください。

さらに、併設されているデジタルタスク室には本格的なスタジオがあり、授業の課題作成（例えば、英語プレゼンテーションの録画）や、学生の自発的なコンテンツ作り（例えば、小樽を外国語で紹介する動画作成）といった、より実践的な外国語学習が可能です。機材の貸出もしていますので、地域を外国に発信するグローバルな外国語を目指して、積極的に利用して下さい。

世界へ飛び立とう！15カ国、20の協定締結大学が皆さんを待っています。

【アメリカ】 ウェスタンミシガン大学 オグレスープ大学 サウスダコダ大学 レスリー大学	【ニュージーランド】 オタゴ大学	【スペイン】 ブルゴス大学	【オーストリア】 ウィーン経済大学
【イギリス】 シェフィールド大学	【ドイツ】 パイロイト大学 ベルリン経済・法律大学	【ロシア】 ロシア極東連邦総合大学	【フィンランド】 オウル応用科学大学
【オーストラリア】 ウーロンゴン大学	【フランス】 エクス=マルセイユ大学	【韓国】 忠南大学	【マレーシア】 マラヤ大学
	【中国】 東北財経大学 蘭州大学	【アイスランド】 ビフロスト大学	【ベトナム】 ベトナム国家大学ホーチミン市国際大学

外国語の履修について

昼間コース

昼間コースでは、入学時に、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、韓国語の中から2外国語を選び、14単位修得しなければなりません。言語選択は抽選となりますので、必ず期日までに、本学HPより履修志望を登録してください。

以下、英語とドイツ語を例に、外国語Ⅰおよび外国語Ⅱの履修方法を説明します。

●1年次では、英語Ⅰの4単位とドイツ語Ⅰの4単位、計8単位を履修します。

●英語Ⅰ(ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD)は、半期、週1回の1単位科目で、合計4単位が必修です。

入学直後にプレイスメントテストを行い、レベル別(基礎、標準、発展)にクラスを指定します。必ず受験して下さい。

●ドイツ語Ⅰは週2回の授業で、半期2単位、前期と後期で合計4単位となります。

前期に合格しないと、後期は履修できません。また、1年次の4単位をすべて修得済みでなければ、2年次のドイツ語Ⅱは履修できません。

●2年次では、英語とドイツ語のどちらか一方をⅡAコース(週2回)、他方をⅡBコース(週1回)として選択します。

ドイツ語をⅡAコース、英語をⅡBコースとする場合、ドイツ語は、前期、後期ともに週2回の授業で合計4単位、英語の方は週1回の2単位となります。逆の場合は、英語が週2回、ドイツ語が週1回となりますが、いずれにせよ、2年次では計6単位が必修となります。

※ドイツ語とフランス語といった選択も可能ですが、時間割の同一時間帯に開講しているため、同一年度に同時履修することはできません。

※留学生については、日本語科目を外国語科目に振り替えることができ、例えば日本語と英語や、日本語とドイツ語のような選択も可能です。

※その他の詳細については、入学後に配布される『履修の手引き』をご覧ください。

夜間主コース

夜間主コースの外国語科目は、英語は1, 2年次ともに必修、英語以外は1年次の選択必修となります。英語以外の履修志望は抽選となりますので、必ず期日までに、本学HPより履修志望を登録してください。

●1年次の英語Ⅰ(ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD)は半期、週1回の1単位科目で、計4単位が必修となります。所属クラスについては、学期当初にオリエンテーションを行い、抽選にて決定します。

●2年次にも同様に4単位(ⅡA1・ⅡA2・ⅡB1・ⅡB2各1単位)を修得しなければなりません。

●英語以外の外国語Ⅰは、ドイツ語、フランス語、中国語から1つを選び、週2回の講義を受け、前期2単位、後期2単位、計4単位を修得します。

履修志望登録の方法

昼間コースも夜間主コースも本学HPより履修志望の登録を行います。これをもとに抽選にて選択言語を決定しますので、期日までに必ず登録して下さい。

小樽商科大学ホームページ

<https://www.otaru-uc.ac.jp/>

履修志望登録画面

トップページ

→在学生(ページ最上部メニューバー)

→学生への連絡事項

→【令和2年度新入生向け】

英語以外の外国語科目の希望調査について

→昼間コース/昼間コース(留学生)/夜間主コース/(該当するコースを選んで下さい。)

※登録時の注意事項

①新入生は受験番号と氏名を入力して下さい。

②昼間コースは第6志望まで、夜間主コースは第3希望まで、必ず選択して下さい。

③昼間コースの留学生は自分の母語を履修することは出来ません。また、上級日本語を履修しない、もしくは外国語科目に振り替えない場合は、必ず第6志望まで選択して下さい。

④**3月27日(金)まで**に登録して下さい。

⑤結果は4月6日(月)午前8時30分に3号館・図書館前に掲示します。

近年、国際化の波は、芸術や文化、スポーツばかりでなく、乗るもの、着るもの、食べるものにまで及んでいます。海外はもとより、国内に居ながらにして、電話、ファックス、衛星、コンピュータ・ネットワーク等を利用して海外との交流が活発に行われており、世界との距離はますます短くなってきています。われわれは、日本人であると同時に、国際社会の一員でもあるわけです。そのような現代において、もっとも重要な国際語の一つである英語が果たす役割は、非常に大きいといえます。英語を学ぶということは、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドをはじめとする英語圏の国々の文化や伝統を知ることにとどまらず、実際的な国際コミュニケーションの手段としても重要になります。

英語のカリキュラムは、以上のような点を考慮して、英語のコミュニケーション能力を総合的に高められるようクラスが組まれています。また、毎年、短期語学研修生として多くの学生がアメリカやカナダ、オーストラリアなどに留学し、さらには、本学の協定に基づく交換留学生として、英語圏の国々に長期留学する学生もいます。



【授業の紹介】

1年次の英語科目としては、IA、IB、IC、ID（各1単位）が開設されており、英語を選択した場合には、それぞれ1単位ずつ計4単位を履修しなければなりません。2年次においても、各1単位の英語科目が開設され、うち4単位を履修するコースと2単位を履修するコースに分かれます。さら

に英語を勉強したい学生は、このほかに英語上級I・II・III・IVやビジネス英語I・IIなどの商学科科目を履修することができますし、英語と密接に関連した研究指導に所属することもできます。

1年次の英語は、コア・コースのIA、IB、さまざまな内容からなるIC、e-learningのIDに分かれており、それぞれ1クラスずつ履修しなければなりません。その中でIDはセルフ・アクセス・スタディのコースとして設定されています。IDのクラス履修者は、単位修得上、本学で行われているTOEIC IPテストをはじめとした外部試験を受験する必要があります。IA、IBおよびICには、標準クラスのほかに、「基礎クラス」と「発展クラス」が設けられていますから、自分の英語の力に応じて、クラスを履修することになります。

2年次の英語は、英語IIAとIIBの2種類に分かれています。IIAを選択した場合にはA1、A2、A3、A4のすべてを修得しなければなりません。IIBを選択した場合には、英語以外の外国語のIIを4単位修得しなければなりません。

英語の教材は、小説、ドラマ、映画や、言語、環境問題、外国事情、文化などに関する評論・エッセイ、さらに新聞、雑誌等の記事など、非常にバラエティに富んでいます。授業の進め方も、講読形式から、映画を利用したロールプレイやアフレコ、エッセイやジャーナルのライティング、さらにはコンピュータを利用した授業にいたるまで、多様な方法がとられています。授業の評価は、おおむね試験やレポートの評点のほか、出席や授業への参加度などを含めて、総合的に判断して行われます。

以上のような授業の中で、実際に使われている英語にできるだけ多くふれ、これまで中学校と高等学校で学んできた基本的な構文を再確認して整理し、語彙力を増強するとともに、リスニング、スピーキングやライティングの力を補強するよう努めていただきたい。さらに、語学は普段の努力が重要で、授業だけではなく、BSのニュース、外国語放送の映画・ドキュメンタリーなど、TV・ラジオ等を活用することも大切です。また、本学には多くのDVDやCD、コンピュータを備えたマル

チメディア・ライブラリがあります。授業に加え、これらを利用して自主的に努力を重ね、国際社会の一員として世界の絵舞台で活躍しうだけの語学力を身につけることも可能です。

英語にさらに強い興味をもち、英語教員を志望する学生のためには、教職科目（教員免許の資格を取得するための専門科目）とそれに関連した研究指導（ゼミナール）が設けられています。英語系の教職科目は、英文学、英語学、言語学、英語コミュニケーション、比較文化、英語科教育法に関するもので、これらの科目を所定の単位数（た

だし卒業所要単位には含まれないものもあります）だけ修めることによって、英語教員の道も開けます。以下に、英語と密接に関連した科目を、配当年次別に表として挙げておきます。4年間にわたって、英語とあわせてこれらの科目も計画的に履修するとよいでしょう。

なお、商学部商学科には、英語の教員免許取得を主目的とした英語専修のコースが設けられています。商学科英語専修については、『履修の手引き』記載の案内を参照してください。



外国語科目以外の英語関連科目

配当年次	科目名	備考
1年	外国文学Ⅰ	基礎科目 2単位
	外国文学Ⅱ	基礎科目 2単位
	基礎ゼミナール	基礎科目 2単位
	英語コミュニケーションⅠ	商学科科目 2単位
	比較文化Ⅰ	商学科科目 2単位
	英作文Ⅰ	商学科科目 2単位
2年	英語コミュニケーションⅡ	商学科科目 2単位
	英語コミュニケーションⅢ	商学科科目 2単位
	英語コミュニケーションⅣ	商学科科目 2単位
	比較文化Ⅱ	商学科科目 2単位
	比較文化Ⅲ	商学科科目 2単位
	比較文化Ⅳ	商学科科目 2単位
	英作文Ⅱ	商学科科目 2単位
	英語学特講Ⅰ	商学科科目 2単位
	英語学特講Ⅱ	商学科科目 2単位
	英文学特講Ⅰ	商学科科目 2単位
	英文学特講Ⅱ	商学科科目 2単位
	3・4年	研究指導
ビジネス英語Ⅰ		商学科科目 2単位
ビジネス英語Ⅱ		商学科科目 2単位
英語上級Ⅰ		商学科科目 2単位
英語上級Ⅱ		商学科科目 2単位
英語上級Ⅲ		商学科科目 2単位
英語上級Ⅳ		商学科科目 2単位

教職科目

配当年次	科目名	備考
1年	英文学概論Ⅰ	2単位
	英語学概論Ⅰ	2単位
	英語学概論Ⅱ	2単位
	英語学概論Ⅲ	2単位
	英文学史Ⅰ	2単位
	英作文Ⅰ	2単位
	英語コミュニケーションⅠ	2単位
	比較文化Ⅰ	2単位
2年	言語学概論	2単位
	英語学Ⅰ	2単位
	英語学Ⅱ	2単位
	英文学Ⅰ	2単位
	英文学Ⅱ	2単位
	英文学概論Ⅱ	2単位
	英文学史Ⅱ	2単位
	英作文Ⅱ	2単位
	英語コミュニケーションⅡ	2単位
	英語コミュニケーションⅢ	2単位
	英語コミュニケーションⅣ	2単位
	比較文化Ⅱ	2単位
比較文化Ⅲ	2単位	
比較文化Ⅳ	2単位	
3・4年	英語科教育法Ⅰ	2単位
	英語科教育法Ⅱ	2単位
	英語科教育法Ⅲ	2単位

皆さん、入学おめでとう。小樽商科大学での勉学のうち、皆さんにとってまず最も目新しいのは、恐らく英語以外の外国語ではないかと思われます。ここではそのトップバッターとして、ドイツ語の紹介をいたします。

【日本とドイツ、そしてヨーロッパの中でドイツ】

ドイツ語はドイツ・オーストリア・スイス・リヒテンシュタイン、あるいはベルギーやルクセンブルクの一部で使用され、これを母語とする人口は約 1 億 3000 万人ですが、北欧・南欧・東欧・ロシアはドイツと緊密な経済・文化関係があるため、ヨーロッパでは英語に準じて広く通用する言語です。

さて日本に目を転じると、遠い国であるドイツの言葉が結構多く日常会話の中で使われているのです。日本語になったドイツ語、どんなものがあるでしょう？ アルバイト、これは身近なドイツ語のナンバーワンですね。他にもゼミナール、リュックサック、メルヘン、ワッペン、ワンダーフォーゲル、カルテ、ガーゼ、ゲレンデ、ヒュッテ、笑えるものではレンペンなんてものもあります。なぜ日本語にとってドイツ語はこれほど身近なのでしょう？

日本とドイツ。実はこの両国の関係は古く、明治時代初期から始まります。(江戸時代後期に日本で活躍したシーボルトは、政治的な理由から自らをオランダ人と称しておりましたが、実はドイツ人でしたので、その関係は更に古くなります) 成立間もない明治政府は、近代国家形成をドイツ(正確にはベルリンを首都とするプロイセン王国)に学んだ点が多く、近代化に必要な諸学問について、また哲学や芸術の分野においても、当時最先端を走っていたドイツから多くを輸入したのでした。例えば戦前までは、自然科学系ノーベル賞(医学・生理学、物理学、化学)の受賞者を最も多く輩出した国は、ドイツでした。経済学においても状況は同じです。戦前の経済学の一大勢力は、マルクス主義経済学でしたが、その「聖典」であるマルクスの「資本論」はドイツ語で書かれています。つまり、世界を知り、世界を表現するためには、ドイツ語を少しでもかじっておく必要があったのです。こうして日本の知識人の先達たちが、ドイツからたくさんの言葉を持ち帰ったわけです。

【ドイツ語学習のメリット】

では、現代のわれわれがこのドイツ語を学習する意味とは何なのでしょう。例えば以下のような 3 点が挙げられるでしょう。

1. 上に述べたように、ドイツは我が国の近代的学問の発展に多大な影響を与えた国です。戦後もまた、ドイツと日本の両国は経済、科学、政治、文化の分野において互いに重要なパートナーであり、共通の価値観を分かち合ってきました。ドイツ語を学ぶということは、この重要な国に対する関心を高め、両国の絆に対する認識を深めつつわが国の未来について思考することの大事な第一歩となるでしょう。

2. ドイツも中核となっている EU (ヨーロッパ連合) の理解にも役立ちます。EU はイギリス離脱後も 27 カ国の加盟国と約 5 億の人口を擁する大きな政治的・経済的単位であり、問題を抱えているとは言え、EU 抜きに世界の政治・経済は語れません。EU の中央銀行が置かれるドイツはリーマン・ショックからすぐに立ち直り、ヨーロッパでは「ドイツの一人勝ち」と言われるほど強固な経済力を保っています。「世界で最も影響力のある女性」と言われたアンゲラ・メルケル首相の政権は、難民保護政策に関して注目をされました。今後も政治面・経済面でのドイツのリーダーシップに世界の目が注がれています。

3. ドイツは福島原発事故の後、早々と脱原発路線を決定した環境先進国でもあります。未来のエネルギー政策は言うに及ばず、他にも社会福祉、余暇利用、女性の社会進出、地方自治などについてドイツから学ぶべき点は少なくありません。

【ドイツ語とはどんな言葉？】

学者たちが持ち帰った言葉、ということでドイツ語には堅苦しいイメージありますが、そもそもドイツ語と英語は同じ言語から枝分かれした兄弟関係にあるので、英語を学んだ皆さんにとってドイツ語の文法を理解することはさして難しくはないはずです。発音は基本的にローマ字読み近く、英語とよく似た単語でも、発音は英語よりずっと簡単です。例を挙げてみましょう。

(ド) Sie hat ein Buch. (ジーハットアインブツ)
= (英) She has a book.

(ド) Das ist eine gute Idee. (ダス イスト アイネ グーテ イデー)
= (英) That is a good idea.

(ド) Es ist kalt hier. (エス イスト カルト ヒア)
= (英) It is cold here.

どうです？ 簡単そうでしょうか？ 勿論、実際の文章はこれほど単純なものばかりではなく、色々な語尾変化もありますが、ドイツでは、小学生も使いこなし

ているのです。数多くの練習をゆっくりとこなしていけば、恐れるには足りません。語尾変化は反面、単語の結びつき方を明瞭化する効果があり、そのせいでドイツ語は極めて明晰な言語であると言われて

【本学のドイツ語学習の目標】

本学のドイツ語学習は、ドイツ語圏の生活や文化の理解を通してドイツ語の総合的語学能力を獲得することを基本目標とします。しかし、更に学習意欲のある人は、この基礎的な能力に留まらず、留学によってより高度な会話能力の獲得を目指すこともできます。そのような人には、1年次から本学のドイツ語圏協定大学での留学を目指して勉強することをお勧めします。

【4年間の学習プロセス】

関連科目を組み合わせることで、効率的な学習を達成できます。

●第1段階（必修科目：ドイツ語Ⅰ／選択科目：外国語コミュニケーション）

1年次で履修する入門段階です。目標は基本的な語学能力の習得。ドイツ語の基本構造の理解と、現代ドイツ語圏の生活・文化・社会の事情に触れながら4技能（話し、聞き、読み、書く）の総合力を育成していきます。

●第2段階（必修科目：ドイツ語Ⅱ／選択科目：外国語コミュニケーション）

2年次のドイツ語Ⅱは2コースに分かれて履修します。週2回履修するAコースと週1回のBコースです。Aコースはドイツ語を集中して学ぶコースで、それなりのモチベーションと努力が要求されます。Bコースも週1回とは言え、1年次に学んだ基礎の確認から発展・応用と、ドイツ語力の堅実なレベルアップを図ることができます。

●第3段階（選択科目：ドイツ語上級）

3～4年次の強い学習意欲がある者が対象。半期あるいは1年の学習によって更に上級の総合的語学能力の獲得を目指します。

●第4段階（協定大学での留学）

本学では、協定校における半年または1年の交換留学制度が整備されています（バイロイト大学・ウィーン経済大学・ベルリン経済法律大学）。参加者は国際的な環境の中でコミュニケーション能力を磨くことができます。語学以外の科目も履修でき、取得した単位は本学で認定可能です。国際化が加速する現在、学生のうちに異文化を体験することは将来の人生にとって大きな糧となるでしょう。参加を検討してみてください。成績優秀者には奨学金も支給さ

れます。

また、札幌で以下のドイツ語検定試験が行われています（2020年現在）。挑戦してみてください。

①ドイツ語技能検定試験（独検）

②オーストリア・ドイツ語検定試験

【ドイツ語Ⅰについて】

○授業回数：週2回（火・木）

○クラス編成：I-a、I-bの計2クラス

○クラス分け：両クラスとも共通教科書を使用しますので、内容は同じです。a、bへのクラス分けは、学生番号によって行われます。

【授業内容】

総合型の教科書を用いつつ、多彩な会話練習と文法練習を経て総合的なドイツ語基礎能力の育成を図ります。実際のシチュエーションに即して言葉の仕組み、会話の諸パターン、生活習慣・文化などを学んでいきます。更に文法項目の基本練習とドリルにより語学知識の定着を図ります。教室では、ペアでの会話練習などを通して繰り返し練習していきますから、毎回の授業に積極的に参加していれば、自ずと語学力が身につくはずで、これに加えて、時には別のテキストに脱線したり、ドイツの風習や歴史について学んだりしてゆけば、今まで皆さんが知らなかったドイツ語の世界が徐々に目の前に開けてくることでしょう。

なお、選択科目として「基礎科目」の分類となる「外国語コミュニケーション」は、必修授業を補完するものです。ドイツ語コミュニケーション能力、表現能力をよりアップさせることに重点を置いた科目です。将来ドイツ留学を考えている人には是非お勧めする総合的なドイツ語運用能力育成授業です。

さて皆さん、ひとたびドイツ語を履修したなら、一度ドイツを訪れてみてください。ドイツ全土に点在する美しい古都、落ち着いた大学町、古城をつなぐ街道とライン河、現代都市工学の粋を結集して変貌を遂げた首都ベルリンなど、見るべきものがたくさんあります。また2014年にサッカーのワールドカップで優勝して世界に知らしめたように、ドイツはサッカー大国。日本人選手が多数活躍するプロサッカーリーグ「ブンデスリーガ」などを通じて、ドイツは多彩な顔を見せてくれます。旅行でも留学でもドイツ語を使って外の世界に出て行ってください。ドイツ語を履修した皆さんにヨーロッパの門は大きく開かれることでしょう。

昼間	Français
コース	フランス語

【英単語、3つに1つはフランス語】

大ざっぱに言って、英語はドイツ語と同じゲルマン系の言葉。他方、ラテン系のフランス語は、イタリア語やスペイン語の仲間。ところが、英語とフランス語は実によく似ています。

J'arrive à la station à six heures.
I arrive at the station at six o'clock.
 Il y a une fleur bleue sur la table.
There is a blue flower on the table.
 Avez-vous visité le musée ?
Have you visited the museum ?

比べてみると、似ていますよね。実際、英単語の1/3はフランス語とまったく同じか、あるいはよく似たスペリングです。フランス語を学ぶ上で英語の知識は大いに役立ち、またフランス語の学習は英語のより深い理解につながるのです。

こんな面白い例があります。英語で「羊」という時、「動物の羊 sheep」と「羊肉 mutton」を区別します。また、「牛 ox/牛肉 beef」、「豚 pig/豚肉 pork」も同様です。しかし、sheep、ox、pigが本来の英語であるのに対し、食肉の方はいずれも古いフランス語 moton、boef、porc に由来しています。なぜなのでしょう？

【イギリス王はフランス語を話していた】

はるか昔の1066年、フランスのノルマンディー公ギヨームが、英仏海峡を渡ってイングランドを征服しました。当時のイギリスでは、ゲルマン系のアングロ・サクソン語（古英語）が一般的でしたが、これを機に、イギリス貴族達は王の言葉話し始めます。mutton や beef の元となった古フランス語はこうしてイギリスにもたらされ、古英語と併存することになります。言ってみれば、平民が汗を流して育てるのが sheep で、貴族が裕福に食すのが mutton というわけです。以後、およそ300年の間、海の向こうのフランスの言葉がイギリスの公用語となります。

ところが、14世紀から15世紀にかけて、フランス王位継承権をめぐる、いわゆる百年戦争が起こります。その末期、苦戦を強いられていたフランスに現れたのが、あの救国の少女ジャンヌ・ダルクです。その活躍は脇に置くとして、この激闘の後、両国の言葉は袂を分かち、それぞれに個性豊かな文化を築きあげていきます。

フランスの場合、17世紀前半、地方によって異なるフランス語を統一するため、アカデミー・フランセーズが設立されました。その編纂するフランス語辞典により、フランス語は、他の国々に比べ、いち早く「国語」として整備されていきます。その結果、18世紀にはヨーロッパの共通言語（外交語）となり、現在でも、多くの国際機関で、第一ないし第二公用語です。さらに、フランス語の普及は国策でもあり、今では広く世界中で話される言葉となりました。

【フランス語はこうして世界に広まった】

さて、少々数字が古いのですが、次は世界の公用語話者ランキングです（カッコ内は母語話者）。

1位	英語	14億	(3億5000万、2位)
2位	中国語	10億	(10億、1位)
3位	ヒンディー語	7億	(2億、4位)
4位	スペイン語	2億8000万	(2億5000万、3位)
5位	ロシア語	2億7000万	(1億5000万、7位)
6位	フランス語	2億2000万	(7000万、11位)
7位	アラビア語	1億7000万	(1億5000万、5位)
8位	ポルトガル語	1億6000万	(1億3500万、8位)
10位	ベンガル語	1億5000万	(1億5000万、6位)
11位	日本語	1億2000万	(1億2000万、9位)
12位	ドイツ語	1億	(1億、10位)

(『言語学百科事典』大修館より)

BIG3 は別格として、フランス語はスペイン語、ロシア語に次ぐ6位にランクインしています。でもよく見てください。フランス語の場合、母語話者は公用語話者の1/3にすぎません（そのうちフランス人はたった6000万人）。逆にいえば、フランス語は、フランス本国以外で、はるかに多く

の人々に話されているのです。でも、なぜなのでしょう？

15 世紀に始まる大航海時代以降、ポルトガル、スペインには後れをとったものの、フランスもまた積極的に海外進出を図りました。まずは 16 世紀から 17 世紀にかけて、インド、カリブ海、北アメリカ大陸に進出しました。新大陸を北上し、たどり着いた地をカナダと名付けたのもフランス人で、その一部（ケベック）では、いまでもフランス語を常用し、カナダ本国からの独立運動も活発です。

次いで 19 世紀後半から 20 世紀前半には、北アフリカ、西アフリカ、インド洋、太平洋、インドシナが、次々とフランスの植民地となりました。植民地支配はフランスの負の歴史ですが、結果として、特にアフリカ大陸の国々にフランス語が残されたことは重要です。若いアフリカがいずれ「世界の工場」となる時が来れば、そこで用いられているフランス語の重要性はますます増すことでしょう（南米のスペイン語も同様です）。

【フランス語の今】

以上のような歴史的経緯から、現在、フランス語は 29 の国で公用語であり、部分的話者を含めると、世界の 50 以上の国や地域で用いられています。これは英語の約 80 の国・地域に次ぐものです。国際共通語の地位を英語に奪われたことは残念ですが、それでもこれらの国・地域は「フランコフォニー（フランス語圏）」の旗印のもと、2 年に一度サミットを開催し、互いに協調を強めています。以下はフランス語通用圏の一部です。

ヨーロッパ：フランス、ベルギー、スイス、モナコ

アフリカ：カメルーン、コートジボワール、セネガル、アルジェリア、チュニジア、モロッコ

北・中米：カナダ東部、ルイジアナ、ハイチ、マルティニーク、グアドループ

太平洋：ニューカレドニア、バヌアツ、仏領ポリネシア

アジア：レバノン（以前はベトナム、ラオス、カンボジアでもフランス語が通用していた）

加えて、フランスは、ドイツと並んで欧州連合（EU）のリーダーでもあり、フランス語の重要性は増しこそすれ、減ずることはありません。その証拠に、フランス語学習者の数は、これもまた英語に次ぐ第 2 位につけています。ですから、フランス語を学ぶということは、フランス本国だけでなく、世界中に散らばるフランス語圏の国々にも通ずることなのです。

【フランス語の授業について】

1 年次のフランス語 I は、アルファベットの発音に始まる「聴く・話す・読む・書く」の四技能の基礎を手ほどきします。多くの人にとっては初めて学ぶ外国語でしょうから、初めのうちは間違うのが当たり前です。堂々と大きな声で間違って、先生に直してもらいましょう。

2 年次のフランス語 II は、基礎の確認から発展・応用への段階です。週 2 コマの A コースはフランス語を集中して学ぶコースで、それなりのモチベーションが要求されます。他方、B コースは週 1 回だけですが、だからといってレベルダウンする訳ではありません。努力次第では A コースに劣らない効果が得られるでしょう。いずれにせよ、2 年次のフランス語は、1 年次以上に積極的な授業への参加が求められます。

もっとフランス語を学びたい人には、オプション科目の「外国語コミュニケーション」（1 年次）、「国際コミュニケーション」（2 年次）、「フランス語上級」（3・4 年次）の履修を勧めます。また、将来のキャリアのため、フランス語検定試験にも挑戦してみてもはどうでしょうか（代表的なものとしては、日本人学習者を対象とした「実用フランス語技能検定試験」と、全世界で実施される「DELF, DALF」があります）。

さらに、本学では、短期派遣留学と長期交換留学が用意されています。前者は 2 ヶ月程度のいわゆる語学研修です。後者の交換留学は、1 年の間、本学の協定校であるポール・セザンヌ/エクス・マルセイユ第三大学で学びます。短期にせよ、長期にせよ、ますます国際化を早める時代にあって、学生のうちに異文化を体験しておくことは、将来への大きな糧となることでしょう。

【中国、日本、中国語】

中国は人口約 14 億人、国土面積は日本の約 25 倍をもつ隣国です。2010 年に GDP は世界第 2 位となり、圧倒的な経済規模を持つ超大国へと成長しました。そして日本にとって最大の貿易相手国でもあり、数多くの日本企業が中国に工場やオフィスを構えています。日本を訪れる外国人観光客を見ても、中国圏からの旅行者は半数以上を占めています。グローバル化が進み国境の壁が低くなるほど、距離の近さが強い影響力をもつようです。

世界地図を眺めてみればわかるように、中国の国域はヨーロッパに匹敵する広がりをもっています。こうした広大な地域において、膨大な人々の間で共通語として使われているのが、現代中国語です。この現代中国語は、学校教育で用いられ、テレビやビジネスなど公共の場で使われていますので、中国のみならず世界各国に暮らす華僑の間でも広く話されているわけです。

【中国語の学習について】

言語の面では、私たちが用いている漢字はごく一部の文字を除いて、すべて中国語より取り入れたものです。今では意識することさえないかもしれませんが、日本で用いている漢字・漢語の多くは、近代以前の文章語（漢文）に基づいています。一方、現在中国で日常的に話されている現代中国語は、近代以降に言文一致運動を経て生まれた、話し言葉が中心になっています。

中国で使用される漢字は簡略化された「簡体字」で、日本の漢字とは字体の異なるものがあります。たとえば「漢字」の「漢」は“汉”となります。とはいえ簡体字の多くは、字形の近さによって日本語から意味を推測することができますし、発音も日本語の音読みに近いものが少なくありません。ただし、中国語には漢字 1 字ごとに日本語にはないトーン（声調）があり、高低アクセントが付いているという特徴があります。声調は 4 種類あり、同じ音節であっても声調の種類が異なるだけで全く意味の異なる単語になりますから、発音の練習を十分におこなう必要はあります。

しかし中国語学習者にとっては幸運なことに、今の日本はかつてないほど中国語の学習環境が整っています。今や中国系の人々を見かけない日の方が少ないほどですし、本校の留学生も半数以上が中国人です。観光地やアルバイト先、通学の電車で生の中国語を耳にすることも珍しくありません。好むと好まざるとに関わらず、今や中国語は日本で使う必要性のきわめて高い言語であると言えるでしょう。



【授業の紹介】

本学の中国語教育は、中国語 I（1 年生担当）、中国語 II（2 年生担当）、中国語上級（3、4 年生担当）の 3 段階に大きく分けることが出来ます。

新入生の皆さんが最初に履修するのは、中国語 I です。本学では 4 クラス開講しています。中国語を履修することになった皆さんは、a～d のクラスに分かれて週 2 回の授業を受けることになります。授業は中国人と日本人の教員が週 1 回ずつ担当します。ネイティブ教員の授業では耳と口を鍛えてコミュニケーション能力を高め、日本人教員は日本人学習者の苦手な点を適切に指導します。履修単位は前期と後期に分かれていますが、基本的に全員前期と同じクラスで履修してもらいます。ただし、前期の単位を取得できなかった場合は、他の外国語と同様に、後期の履修は認められませんから注意してください。

次に、一般的な授業の内容について紹介しましょう。開講当初は各クラスとも発音の訓練を中心とした授業となります。発音練習の繰り返しは退屈に感じるかも知れませんが、中国語の学習は「発音に始まり発音に終わる」と言われています。特に最初から声調を正しく発音するのは難しいものですが、教員や CD の発音を聞き、口を大きく開けて何度も練習してください。そうすれば必ずきちんと通

じる中国語を話せるようになるでしょう。発音ができるようになったら基本文型を学び、会話の練習を行ないます。中国語を用いた教員との応答練習はもちろん、学生同士のペアやグループで練習を行なうこともあります。

このように授業では学生の皆さんが練習することを重視しますから、出来るだけ欠席しないようにしてください。そして積極的に教室で発音や会話の練習に取り組んでください。また、分からないことや疑問に思うことがあればどんどん質問してください。皆さんの能動的な学習意欲が、上達を早める原動力となるでしょう。

中国語Ⅱでは、中国語Ⅰで習得した基礎をもとに、より実践的な会話力や読解力、聞き取りの能力の向上がはかられます。中国語の多様な表現や、中国語特有の考え方を学び、より深く中国を理解し、中国人と交流できるよう、学習の積み重ねが進められます。

そして皆さんは本学において中国語上級まで履修することが出来るわけですが、この中国語上級では、更に実践的で実用的な中国語能力の習得を目指しています。具体的には中国の人々との高度な会話能力の育成を目標に置き、教員と学生の皆さんとの交流をより密にして授業を進めています。この上級中国語で目指している能力を身に付ければ、中国に長期滞在して仕事や学問を進めていく道が開けることでしょう。

なお、本学は東北財経大学（大連）と蘭州大学（甘粛省）と提携を結んでおり、毎年留学生の派遣や交換を行なっています。また、台中科技大学（台湾）とも交流があります。本学に留学中の中国人留学生が私たちの授業を手伝ってくれることもあります。皆さんには短期留学と長期留学の制度がありますから、日本の教室内で勉強するだけでなく、海外に飛び出して学生時代にしかできない体験に挑戦してみてください。初めに書いた通り、いま中国は日本に最も「近い」外国です。費用も安いですし、気軽においしいものが食べられます。現地で会話できるようがんばってください。

このほかに言語センターのマルチメディアライブラリには中国語語学図書（NHK 中国語講座、中国語検定対策ほか）とCD、中国映画・ドラマのDVDなども備えていますから、活用して楽しく勉強してください。

【中国語の使い方】

授業で中国語の学習を始めることができたなら、それを

契機として中国語を様々な方法で活用してください。語学は、その言語を勉強することだけが目的ではありません。習得した語学力を駆使して、何かを実現することに意味があります。仕事に生かすにせよ、旅行をするにせよ、それぞれ違った目標があるはずですが、単位取得だけが目標の人には、授業は退屈な時間になることでしょう。より充実した時間になるよう、常に目的を考えながら勉強を進めて欲しいと思います。

前に述べたように、いまの日本は中国語との接点にあふれています。課外活動やアルバイトの時に、習った中国語で会話をする学生も今や少なくありません。

このほか、中国語履修者から志願を募り、地域貢献活動も行なっています。以前には中国語で「小樽観光案内」を作ったり、小樽市立文学館を中国語化するプロジェクトをしたりしました。現在、小樽総合博物館を中国語化するプロジェクトに取り組んでいます。中国語を活用できるよう、教員や中国人留学生と一緒に楽しくチャレンジしてくれる人を待っています。

また、中国語圏では動画が積極的にインターネットで公開されており、映画・MTVはもちろんのこと、テレビになると録画のほかに、生放送でほとんどの番組を見ることができます。こうした絶好の環境を利用し、自分の興味のある分野を見つけて中国語を勉強してください。そして2年間取り組むことになる外国語を、将来に結びつけてもらいたいと思います。中国のことをすべて好きになれと言っているわけではありません。中国でも日本でも好きなところ、嫌いなところがあって当たり前です。身近で文字が似ていても、考え方で近いわけではありません。だからこそ中国語の学習を通じて、中国をより深く理解してもらいたいと思います。なぜなら各民族の考え方は言葉にこそよく表れているからです。



【上海外灘夜景】（外灘：ワイタン、外灘：Wàitān）中国上海市中心部の黄浦区にあり、世界でも有名な観光エリアです。

【スペイン語 地中海への扉】

日本では地中海の文化もスペインもほとんど知られていません。見当違いな誤解はされているようですけれど。これはわが国の独特な近代化と無縁ではありません。独特な近代化とは何かと言えば、それはヨーロッパの長い歴史の中から日本が近代化を決意した 19 世紀後半のみに支配的だった潮流だけを学び、うわべだけこれに同化して、一刻も早く先進国の仲間入りをしようとしたという意味です。そのとき見落されたものはいくつもありますが地中海文化はそのひとつです。

この文化は一言で言えば「ゆとりの文化」です。急速に近代化をしなくてはならなかった途上国（日本）にはこのような文化は無用のものでしたし、またそのようなものを視野に入れるゆとりもなかったのです。スペインの哲学者オルテガによればこの南の文化は「人間の理想とは樹木であり、汗水を流すことなく、ほとんどすべてのものを大地、太陽、風が与えてくれる豊かな大地のみに許されるぜいたくな文化」ということになります。この文化ではミュージカルでなくオペラが、ハンバーガーのようなファースト・フードでなくコース料理が、コーラでなくオルチャータ（アーモンド飲料）が、まぜもののカクテルではなくワインが、集団でなく個人が、仕事でなく休暇が、スピードでなくのどかさが、銀行家や起業家より芸術家や詩人がはるかに尊ばれます。ある北欧の学者は「地球上をことごとくアメリカ文化がおおいつくそうとしても唯一地中海文化だけはこれに対抗しうるだろう」と述べていますが一端の真実をついているでしょう。

スペイン語にはこのような地中海文化が鏡のよ

うにくっきりと映しとられています。スペイン語はわが国の文化が長らく見すごしつづけていた地中海文化への扉となります。またもちろん、ヨーロッパの歴史上の大国、先進国のうちで、日本で最も知られていない国スペインを知る扉ともなります。ルネサンス、バロックの時代に世界に君臨し、いまなおその光輝を失わない国であることを知るでしょう。扉を開けば、地中海の風が吹きこみ、スペインの光に出会えます。そしてまた広大なラテン・アメリカへの扉ともなります。

【5 億人、21 か国、国際語】

ローマ帝国のことばラテン語に起源をもつスペイン語は、現在では 3 つの大陸であわせて 21 の国と地域、4 億 7 千万人の母語です。この言語を習得すれば 21 か国語を習得するのに等しいわけです。国連、欧州連合の公用語でもある国際語です。最近では欧州連合の国々だけでなく、スペインとの経済的結びつきが強くなっている東欧諸国でもスペイン語を学ぶ人たちが増えつづけています。ヨーロッパでスペイン語を学ぶ人が多いのは、スペインが長らく他の国々の憧れの地であったためもあるでしょう。19 世紀、特にロマン主義の時代に、スペインは各国の文学者たちに靈感を与え、バイロンやアンデルセンを初めとする多くの「北の人たち」が地中海のほとりのこの国を訪れ、素晴らしい詩や紀行文を書き、今日なおつづくヨーロッパ人のスペインへの憧れをかきたてました。イギリス人やドイツ人は隠退したら、あるいはできれば今すぐにでも、スペインで暮らすのが夢なのです。彼らの理想の生活は、日本人が憧れる「英国式」でも「ドイツ流」でもなく、「地中海風」もしくは「スペイン風」の暮らしなのです。それは彼らにまじってスペインで休暇を過ごせば、すぐわかることです。ヨーロッパで「英国式」や「ドイツ風」といえば、「実用本位」とか「質実剛

健」を意味し、日本で考えている「オシャレ」とか「エレガンス」とはほど遠いものです。

スペイン語はあらゆる肌の色、さまざまな国籍の人々がコミュニケーションに使う国際語です。英語だけが国際語ではありません。英語というチャンネルだけで出会える世界は決してそれほど広いものではありません。日本で日本人が素朴に信じている、あるいは信じこまされているほど英語はどこでも通じる便利なことばではありません。ヨーロッパ（大陸）に住んでいるアメリカの方が日本人よりはるかに英語が通じないことを、つまり英語の限界を実感しています。特にスペインやイタリアのような地中海の国々ではまず通じないと思った方がよいでしょう。「ここに来るならば私たちのことばを憶えなさい」というのが彼ら地中海人の発想です。「国際化」や「国際人」を語るなら、英語だけでなく、少なくともあとひとつくらいは他の文化圏の言語を習得するのは必要なことです。思いがけない視野が開けてきます。地中海もくっきり見えるでしょう。

【教室をこえて】

大学で学んだことは社会に出て役に立つかというのはいよいよ耳にする議論です。外国語は間違いなく役に立ちます。マドリッドやバルセロナで出会う日本人（外交官、企業の駐在員、自営業者、建築家など）は、その多くが大学で何らかの形でスペイン語を学んだ人たちです。彼らは毎日を大学で学んだことを役に立てて生きています。ラテン・アメリカの各地にはさらにそういう人たちが数多くいるでしょうし、スペイン語で学んだ上で他の言語へさらなる飛躍をしていく人も少なからずいるでしょう。もちろん日本国内でもスペイン語を使う場面はあります。これから皆さんが学ぼうとすることは教室だけで終わらないはずですよ。

スペイン語 I では、発音、文法、会話、翻訳の

基礎を学びます。II では、これを発展させ、上級スペイン語の終わるころには、人によってはIIの終了するころでも、スペイン語の新聞、雑誌は読めるようになるはずですよ。図書館にはスペインの新聞が入っています。挑戦してみてください。インターネット上でも読めます。また政治、経済、社会、文化についてのアカデミックな文章も本人の文化や教養次第で読みこなせるはずですよ。スペインや中南米の文学者たちは、セルバンテスからボルヘスやガルシア＝マルケスまで、我が国の作家たちとは異なって、読んで理解されるための平易な文章を書きますから、彼らの作品を読むこともできましょう。

最後にバリエッホ・ナヘラという著名な学者がスペイン語を学ぶ外国人（つまりわれわれです）に送ったメッセージを引いておきます。「スペイン語は決して習得するのにやさしい言語ではないが習得したときに大きな喜びを与えてくれる数少ない言語のひとつである。」スペイン語を本気で学びたい学生を募ります。本年度より2クラス、80人程度となります。適当にやっけて楽に単位を取りたいという学生にはまったく不向きですよ。

なお2014年のセルバンテス文化センターの報告によると、国際語としてのスペイン語は相対的に増加傾向にあります。母語話者は4億7千万人で英語を超え、全世界では学習者の数も2千万人以上と考えられています。母語、第二言語、外国語としては5億4千万人によって話される、規模では中国語、英語に次ぐ言語となっています。

【ロシア語の紹介】

ロシア語について考えたときにまず最初に思い浮かぶのはエキゾチックな文字ではないでしょうか。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語ではラテン語からの流れを持つラテン文字（ローマ字）が使われますが、ロシア語では教会スラブ語からの流れを持つキリル文字が使われます。ロシア語で使われている文字のアルファベットを小文字で示すと、а, б, в, г, д, е, ё, ж, з, и, й, к, л, м, н, о, п, р, с, т, у, ф, х, ц, ч, ш, щ, ъ, ы, ь, э, ю, я で全部で 33 文字です。一見奇妙に見えますが、ロシア語で使われているキリル文字も英語などで使われているラテン文字も基本的にはギリシア語で使われているギリシア文字に起源を持ち、多くの共通点があります。ロシア語の а は英語の a、ロシア語の о は英語の o、ロシア語の к は英語の k、ロシア語の м は英語の m に対応し、ほぼ同じです。しかし、ロシア語の н は英語の h ではなく、英語の n に対応し、ロシア語の р は英語の p ではなく、英語の r に対応します。また、アルファベットの並ぶ順番も英語とロシア語には多くの共通点があります。新しい文字を覚えるのは、楽しいと思う人と、面倒だと思う人がいると思いますが、所詮は全部で 33 個しかありませんので、一晩あれば十分に覚えられる程度だと思います。友達が知らない文字を読めるのはおもしろいと思いますよ。

ロシア語は、なじみがないかもしれませんが、特殊な言葉ではありません。ロシア語は、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語と言葉の起源において同じ源（祖先）を持ちます。ロシア語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語とその

他の起源を同じくする多くの言葉が属する言葉のグループをインド・ヨーロッパ語族と呼びますが、このグループに属するヨーロッパからインドまでの広大な範囲で話されている多くの言葉（たとえば、ヒンディー語やペルシア語なども）がロシア語と親戚関係にあるのです。ロシア語と英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語はいとこづらの関係です。ロシア語の兄弟はウクライナ語、ポーランド語、チェコ語などです。ロシア語と英語は言葉の上でいとこ同士ですから、ロシア語は英語と多くの類似点を持っています。日本語は英語と言葉の上で親類関係にありませんので、全くと言っていいほど違った言葉ですが、ロシア語は英語と単語、文法等において多くの共通性を示します。したがって、ロシア語を勉強するときには皆さんが既に知っている英語に関する基礎的な知識が多いに役立ちます。しかし、英語と比べて、ロシア語では一つの単語がたくさんの変化形を持っています。そのため、ロシア語はしばしば「難しい」言葉の例としてあげられますが、ロシア語の難しさ、ロシア語学習の面倒くささは、もっぱら初級に集中するこの語形変化がほとんど全てだと言っても過言ではありません。例えば、発音は英語に比べると遥かに日本人にとって聞き取りやすいものですし、単語も英語より覚えやすい構造になっています。言い換えればロシア語は最初だけちょっと大変だけど、そこさえ乗り切れば後はそれほど苦労しないで済む言葉なのです。

日露関係は経済交流を中心にゆっくりながら着実に進んでいて、今後もさらにスピードを上げて進んでいくでしょう。ロシアは日本のすぐそばにあるのですから、今後はロシア語の必要性が増してくると思います。現在はロシア語を使える人は少ないですから、今がチャンスです。小樽はロシアとのつながりが全国的にもとくに深い土地柄です。例えば、小樽港には毎年たくさんのロシア船

が入港し、小樽の街を歩けば毎日のようにロシア人の姿を見かけます。毎年ではないですが、よく、ロシアから小樽商科大学に留学生が勉強しに来ています。街角やスーパーなどでも、ロシア語での案内などがあつたりもします。覚えたロシア語を活用するにはとてもいい環境なのです。

ロシアは大きな国でいろいろな民族の人が住んでいます。ヨーロッパ風の顔をした人、日本人のような顔をした人、中東の人のような顔をした人などいろいろな人がロシアに暮らしていて、ロシア語を使えるようになると、いろいろな人と交流することができるようになります。



【授業について】

a) 到達目標

主たる目標は、第一に、ロシア語で日常会話がある程度こなせるようになること、第二に、ロシア語である程度のレベルの本・新聞・雑誌が読みこなせるようになることです。

b) 1年目の授業について

最初に、ロシア語の文字、発音についての説明と練習を行います。その後は、週2回の授業のうち1回は文法を中心に、もう一回は表現、会話を中心に授業を行い、ロシア語を修得するにあたって必要不可欠と考えられる基礎知識を身につけるとともに、ロシア語に慣れることを目指します。外国語の授業は多くの反復練習を行い、慣れることが基本ですので、積極的に授業に参加してください。また、間違いを繰り返すことによって上達するのですから、間違ふことを恐れなくてください。わからないことがあつたら、いつでもいいので質問してください。

【アンニョンハセヨ！韓国語のすすめ】

韓国語は日本語に一番近い言語です。外国語を習得する上で難しいとされる語順の差がほとんどありません。従って、日本人にはとても馴染みやすく、覚えやすい外国語だと言えます。文字と発音をしっかり理解すれば、他の言語を凌ぐ会話能力の向上が期待できます。韓国語は大学で身につけられる「話せる外国語」の一つです。

ここで、韓国語の歴史について少し触れておきましょう。「ハングル」は15世紀、朝鮮王朝時代に創られた文字名で、言語名ではありません。それまで朝鮮では漢字が使われていたので、学問が許されなかった女性や一般の人々にとっては、読み書きできない事が普通でした。そこで、学識がなくても誰でも簡単に読んで書けるような文字を作ろうという目的で、1443年、朝鮮王朝の第四代王である世宗大王と儒学者たちが集まって創ったのが「ハングル」文字というわけです。1446年、『訓民正音』という本の中にその仕組みや歴史をまとめて公布し、21世紀の今に到っています。この本は1997年にユネスコの世界記録遺産として登録されており、字義通り「民に正しい音を教える」、つまり音を拾って文字にしていく過程を教える内容です。このようにして生まれたハングル文字は、3000を超える世界中の言語の中でも、そのプロセスが最も明確で科学的である稀な文字だと言われています。韓国語は最初から誰でも簡単に身に付けられるように工夫されていますので、発音や文字の原理が非常に理解しやすく、学びやすい言語だと言えます。

近年のアジア各地をはじめ欧米に至るまで広く起こっている韓流ブームによって、日本でも韓国語の学習者が大幅に増えてきました。韓流ブームは韓国語の学習者を増加させ、さらに韓国への関心を拡大

させました。その波は日本の最北端にまで及び、2010年10月、北海道と韓国ソウル市が友好交流協定書を交わしました。それより早い2010年7月には、小樽市とソウル特別市江西区が姉妹都市を提携しており、両市は交流を続けてきています。

しかし、大衆文化の人気現象は、日本における「韓流」に限ったことではありません。韓国においても「日流」と言われる日本の大衆文化への強い関心や人気が長い間続いています。韓国における日流現象の一例を紹介しましょう。「お元気ですか？」という名台詞で知られる岩井俊二監督の映画『Love Letter (ラブレター)』は、小樽という町が知られるきっかけとなり、以後小樽には韓国から多くの観光客が訪れるようになりました。日本語が分からなくても「오겐키데스카? (お元気ですか?)」という台詞を覚えている韓国人がたくさんいるほどです。韓国人はこの映画の物語を通して、日本人の繊細な感情の動きに感動を覚え、情緒溢れる雪景色に見惚れ、そして何よりも、悲しい過去と現在の記憶をとてお茶目でユーモアたっぷりに描いた家族関係や恋人関係に深い感銘を受けました。1995年に韓国で上映された『Love Letter』は絶大な人気を集め、これを機に日本大衆文化への関心が急激に高まりました。この関心はやがて、日本人や日本社会、また日本文化へと広がっていきました。映画に触発された「日流」ブームは多岐に渡っており、日本の小説や、ジブリアニメに代表されるアニメーションへの根強い人気により、日本文化は今もなお、変わらぬ称賛を受けています。振り返ってみると、確かに両国の間では長年政治の面で解決できなかったわだかまりが存在しますが、その限界を大衆文化の交流を通して縫い合わせてきた韓流・日流の役割は大きかったと思います。

このような日韓における大衆文化ブームは、異文化理解、または日韓における相互理解の入り口となっています。この相互理解には「異」を自分の力で確かに見つめ、受け入れようとする姿勢が必要となります。言葉を勉強することは、その姿勢を学ぶこ

とだと考えます。大学で提供している第二言語としての韓国語は、この「異」を理解する入り口として、学びの場を作ろうとしています。語学の勉強だけでなく、真の友好を目指すためには、お互いに知ろうとする姿勢が必要です。そうした中で見出される人同士の繋がりや、文化や社会への理解を広げていくことを目指しています。

【授業の紹介】

韓国語Ⅰは毎週火曜日、木曜日の週2回授業があり、二人の教員が曜日ごとに分担し、きめ細かく行き届いた授業をします。

火曜日のクラスでは読解と文法に重点をおいて授業をします。学習した知識を練習問題で確認し、その定着に努めます。木曜のクラスでは会話に重点をおいて授業をします。言葉の学習が苦しみではなく楽しみになるようなクラスにしたいと考えています。発音練習を兼ね K-Pop、ドラマ、映画などにも触れます。目標はハングルの短い文を読んで書くことができること。あいさつや自己紹介、買い物、食堂での注文などが韓国語でできるようになることです。

韓国語ⅡAも韓国語Ⅰと同じく毎週火曜日、木曜日の計2コマの授業を二人の教員が分担し、行き届いた指導をします。

火曜日のクラスは、テキストの読解と文法に重点を置き、木曜日のクラスでは会話練習に重点を置いた学習を進めます。語学の勉強のみならず、韓国文化や韓国事情なども合わせて説明しています。地下鉄・バス等公共の交通機関を利用して一人歩きできる会話力の習得が目標です。

韓国語ⅡBは毎週1回、火曜日に授業があります。韓国語ⅡAと同じく文法と会話を同時に勉強します。週1回の授業ですが、目標はⅡAと同じであり、学習内容もそれほど異なっていません。

続く上級外国語Ⅰ（韓国語）では、韓国語ⅡAや韓国語ⅡBの内容を踏まえ、平易な文章から少し複雑な文章まで、徐々に分量を増やしながら韓国語の読解力を養います。新聞、国語教科書、エッセイ、

小説など、様々な韓国語の文体に触れます。授業では文法や語彙の確認のみならず、内容に応じて韓国の文化、歴史、習慣、さらに現在の韓国事情に到るまで、多方面から韓国や韓国語を概観します。

最後に上級外国語Ⅱ（韓国語）は、今まで学んできた韓国語の総体として、短いエッセイを書きます。最初は短文から練習し、徐々に複文が書けるように練習します。メールや日記、手紙などが書けるようになります。エッセイは大学生活、お国自慢、趣味など、身近なテーマを選び、韓国語で書けるように勉強します。

以上のように、韓国語は4年間の大学時代を通して、習得できる「身近な外国語」という位置づけで、皆さんの取り組みを積極的にサポートします。韓国語の勉強を通して、より身近な存在として韓国を感じてもらい、即ち異文化理解の入口として韓国語を始めてみてはいかがでしょうか。気軽にその第一歩を踏み出してみてください。



夜間主

English

コース

英語

近年、国際化の波は、芸術や文化、スポーツばかりでなく、乗るもの、着るもの、食べるものにまで及んでいます。海外はもとより、国内に居ながらにして、電話、ファックス、衛星、コンピュータ・ネットワーク等を利用して海外との交流が活発に行われており、世界との距離はますます短くなってきています。われわれは、日本人であると同時に、国際社会の一員でもあるわけです。そのような現代において、もっとも重要な国際語の一つである英語が果たす役割は、非常に大きいといえます。英語を学ぶということは、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドをはじめとする英語圏の国々の文化や伝統を知ることにとどまらず、実際的な国際コミュニケーションの手段としても重要になります。

英語のカリキュラムは、以上のような点を考慮して、英語のコミュニケーション能力を総合的に高められるようクラスが組まれています。また、毎年、短期語学研修生として多くの学生がアメリカやカナダ、オーストラリアなどに留学し、さらには、本学の協定に基づく交換留学生として、英語圏の国々に長期留学する学生もいます。

【授業の紹介】

夜間主コースでは、英語 IA・IB・IC・ID（1年次配当）計4単位と英語 II A1・II A2・II B1・II B2（2年次配当）計4単位が開設されており、全8単位が必修となっています。1年次週2クラス、2年次週2クラス、計8単位を必ず修得しなければなりません。なお、1年次にも2年次にも、標準クラスの他に「基礎クラス」が設けられていますので、自分の英語の力に応じてクラスを選択することができます。

英語の教材は、小説、ドラマ、映画や、言語、環境問題、外国事情、文化などに関する評論・エッセイ、さらに新聞、雑誌等の記事など、非常にバラエティに富んでいます。授業の進め方も、講読形式から、映画を利用したロールプレイやアフレコ、エッセイやジャーナルのライティング、さらにはコンピュータを利用した授業にいたるまで、多様な方法が

とられています。授業の評価は、おおむね試験やレポートの評点のほか、出席や授業への参加度などを含めて、総合的に判断して行われます。

以上のような授業の中で、実際に使われている英語にできるだけ多くふれ、これまで中学校と高等学校で学んできた基本的な構文を再確認して整理し、語彙力を増強するとともに、リスニング、スピーキングやライティングの力を補強するよう努めていただきたい。さらに、語学は普段の努力が重要で、授業だけではなく、BSのニュース、外国語放送の映画・ドキュメンタリーなど、TV・ラジオ等を活用することも大切です。また、本学には多くのDVDやCD、コンピュータを備えたマルチメディア・ライブラリがあります。授業に加え、これらを利用して自主的に努力を重ね、国際社会の一員として世界の検舞台で活躍しうだけの語学力を身につけることも可能です。

英語にさらに強い興味をもつ学生のためには、英語上級 I・II・III・IV やビジネス英語 I・II などの商学科科目や教職科目（教員免許の資格を取得するための専門科目）が設けられています。これらの科目は、昼間コースの時間帯に開講されますが、夜間主コースの学生でも履修することが可能です。英語系の教職科目は、英文学、英語学、言語学、英語コミュニケーション、比較文化、英語科教育法に関するもので、これらの科目を所定の単位数（ただし、卒業所要単位には含まれないものもあります）だけ修めることによって、英語教員の道も開けます。（具体的な科目については5頁の表を参照して下さい）。4年間にわたって、英語とあわせてこれらの科目も計画的に履修するとよいでしょう。



TO BE OR NOT TO BE

That is the
question.

—WILLIAM SHAKESPEARE

皆さん、入学おめでとう。小樽商科大学での勉学のうち、皆さんにとってまず最も目新しいのは、恐らく英語以外の外国語ではないかと思われます。ここではそのトップバッターとして、ドイツ語の紹介をいたします。

【日本とドイツ、そしてヨーロッパの中でドイツ】

ドイツ語はドイツ・オーストリア・スイス・リヒテンシュタイン、あるいはベルギーやルクセンブルクの一部で使用され、これを母語とする人口は約1億3000万人ですが、北欧・南欧・東欧・ロシアはドイツと緊密な経済・文化関係があるため、ヨーロッパでは英語に準じて広く通用する言語です。

さて日本に目を転じると、遠い国であるドイツの言葉が結構多く日常会話の中で使われているのです。日本語になったドイツ語、どんなものがあるでしょう？ アルバイト、これは身近なドイツ語のナンバーワンですね。他にもゼミナール、リュックサック、メルヘン、ワッペン、ワンダーフォーゲル、カルテ、ガーゼ、ゲレンデ、ヒュッテ、笑えるものではルンペンなんてものもあります。なぜ日本語にとってドイツ語はこれほど身近なのでしょう？

日本とドイツ。実はこの両国の関係は古く、明治時代初期から始まります。(江戸時代後期に日本で活躍したシーボルトは、政治的な理由から自らをオランダ人と称しておりましたが、実はドイツ人でしたので、その関係は更に古くなります) 成立間もない明治政府は、近代国家形成をドイツ(正確にはベルリンを首都とするプロイセン王国)に学んだ点が多く、近代化に必要な不可欠な諸学問について、また哲学や芸術の分野においても、当時最先端を走っていたドイツから多くを輸入したのでした。例えば戦前までは、自然科学系ノーベル賞(医学・生理学、物理学、化学)の受賞者を最も多く輩出した国は、ド

イツでした。経済学においても状況は同じです。戦前の経済学の一大勢力は、マルクス主義経済学でしたが、その「聖典」であるマルクスの「資本論」はドイツ語で書かれています。つまり、世界を知り、世界を表現するためには、ドイツ語を少しでもかじっておく必要があったのです。こうして日本の知識人の先達たちが、ドイツからたくさんの言葉を持ち帰ったわけです。

【ドイツ語学習のメリット】

では、現代のわれわれがこのドイツ語を学習する意味とは何なのでしょう。例えば以下のような3点が挙げられるでしょう。

1. 上に述べたように、ドイツは我が国の近代的学問の発展に多大な影響を与えた国です。戦後もまた、ドイツと日本の両国は経済、科学、政治、文化の分野において互いに重要なパートナーであり、共通の価値観を分かち合ってきました。ドイツ語を学ぶということは、この重要な国に対する関心を高め、両国の絆に対する認識を深めつつわが国の未来について思考することの大事な第一歩となるでしょう。

2. ドイツも中核となっているEU(ヨーロッパ連合)の理解にも役立ちます。EUはイギリス離脱後も27カ国の加盟国と約5億の人口を擁する大きな政治的・経済的単位であり、問題を抱えているとは言え、EU抜きに世界の政治・経済は語れません。EUの中央銀行が置かれるドイツはリーマン・ショックからもすぐに立ち直り、ヨーロッパでは「ドイツの一人勝ち」と言われるほど強固な経済力を保っています。「世界で最も影響力のある女性」と言われたアンゲラ・メルケル首相の政権は、難民保護政策に関して注目されました。今後も政治面・経済面でのドイツのリーダーシップに世界の目が注がれています。

3. ドイツは福島原発事故の後、早々と脱原発路線を決定した環境先進国でもあります。未来のエネルギー政策は言うに及ばず、他にも社会福祉、余暇利用、女性の社会進出、地方自治などについてドイツから学ぶべき点は少なくありません。

【ドイツ語とはどんな言葉？】

学者たちが持ち帰った言葉、ということでドイツ語には堅苦しいイメージありますが、そもそもドイツ語と英語は同じ言語から枝分かれした兄弟関係にあるので、英語を学んだ皆さんにとってドイツ語の文法を理解することはさして難しくはないはずです。発音は基本的にローマ字読みに近く、英語とよく似た単語でも、発音は英語よりずっと簡単です。例を挙げてみましょう。

- (ド) Sie hat ein Buch. (ズィー ハット アイン ブゥッ)
= (英) She has a book.
(ド) Das ist eine gute Idee. (ダス イスト アイネ グーテ イデー)
= (英) That is a good idea.
(ド) Es ist kalt hier. (エス イスト カルト ヒア)
= (英) It is cold here.

どうです？簡単そうでしょうか？勿論、実際の文章はこれほど単純なものばかりではなく、色々な語尾変化もありますが、ドイツでは、小学生も使いこなしているのです。数多くの練習をゆっくりとこなしていけば、恐れるには足りません。語尾変化は反面、単語の結びつき方を明瞭化する効果があり、そのせいでドイツ語は極めて明晰な言語であると言われています。

【本学のドイツ語学習の目標】

夜間主のドイツ語の授業は週2回、1年間のみですが、希望者は昼間コースのドイツ語関連授業を履修することも可能です。それについては本冊子7頁を参考にしてください。

また本学では、協定校における半年または1年の交換留学制度が整備されています（バイロイト大学・ウィーン経済大学・ベルリン経済法律大学）。参加者は国際的な環境の中でコミュニケーション能力を磨くことができます。夜間主の学生も意欲的に挑戦してみてください。

さて皆さん、ひとたびドイツ語を履修したなら、一度ドイツを訪れてみてください。ドイツ全土に点在

する美しい古都、落ち着いた大学町、古城をつなぐ街道とライン河、現代都市工学の粋を結集して変貌を遂げた首都ベルリンなど、見るべきものがたくさんあります。また2014年にサッカーのワールドカップで優勝して世界に知らしめたように、ドイツはサッカー大国。日本人選手が多数活躍するプロサッカーリーグ「ブンデスリーガ」などを通じて、ドイツは多彩な顔を見せてくれます。旅行でも留学でもドイツ語を使って外の世界に出て行って下さい。ドイツ語を履修した皆さんにヨーロッパの門は大きく開かれることでしょう。



夜間主	Français
コース	フランス語

【英単語、3つに1つはフランス語】

大ざっぱに言って、英語はドイツ語と同じゲルマン系の言葉。他方、ラテン系のフランス語は、イタリア語やスペイン語の仲間。ところが、英語とフランス語は実によく似ています。

J'arrive à la station à six heures.
I arrive at the station at six o'clock.
 Il y a une fleur bleue sur la table.
There is a blue flower on the table.
 Avez-vous visité le musée ?
Have you visited the museum ?

比べてみると、似ていますよね。実際、英単語の1/3はフランス語とまったく同じか、あるいはよく似たスペリングです。フランス語を学ぶ上で英語の知識は大いに役立ち、またフランス語の学習は英語のより深い理解につながるのです。

こんな面白い例があります。英語で「羊」という時、「動物の羊 sheep」と「羊肉 mutton」を区別します。また、「牛 ox/牛肉 beef」、「豚 pig/豚肉 pork」も同様です。しかし、sheep、ox、pigが本来の英語であるのに対し、食肉の方はいずれも古いフランス語 moton、boef、porc に由来しています。なぜなのでしょう？

【イギリス王はフランス語を話していた】

はるか昔の1066年、フランスのノルマンディー公ギヨームが、英仏海峡を渡ってイングランドを征服しました。当時のイギリスでは、ゲルマン系のアングロ・サクソン語（古英語）が一般的でしたが、これを機に、イギリス貴族達は王の言葉話し始めます。mutton や beef の元となった古フランス語はこうしてイギリスにもたらされ、古英語と併存することになります。言ってみれば、平民が汗を流して育てるのが sheep で、貴族が裕福に食すのが mutton というわけです。以後、およそ300年の間、海の向こうのフランスの言葉がイギリスの公用語となります。

ところが、14世紀から15世紀にかけて、フランス王位継承権をめぐる、いわゆる百年戦争が起こります。その末期、苦戦を強いられていたフランスに現れたのが、あの救国の少女ジャンヌ・ダルクです。その活躍は脇に置くとして、この激闘の後、両国の言葉は袂を分かち、それぞれに個性豊かな文化を築きあげていきます。

フランスの場合、17世紀前半、地方によって異なるフランス語を統一するため、アカデミー・フランセーズが設立されました。その編纂するフランス語辞典により、フランス語は、他の国々に比べ、いち早く「国語」として整備されていきます。その結果、18世紀にはヨーロッパの共通言語（外交語）となり、現在でも、多くの国際機関で、第一ないし第二公用語です。さらに、フランス語の普及は国策でもあり、今では広く世界中で話される言葉となりました。

【フランス語はこうして世界に広まった】

さて、少々数字が古いのですが、次は世界の公用語話者ランキングです（カッコ内は母語話者）。

1位	英語	14億	(3億5000万、2位)
2位	中国語	10億	(10億、1位)
3位	ヒンディー語	7億	(2億、4位)
4位	スペイン語	2億8000万	(2億5000万、3位)
5位	ロシア語	2億7000万	(1億5000万、7位)
6位	フランス語	2億2000万	(7000万、11位)
7位	アラビア語	1億7000万	(1億5000万、5位)
8位	ポルトガル語	1億6000万	(1億3500万、8位)
10位	ベンガル語	1億5000万	(1億5000万、6位)
11位	日本語	1億2000万	(1億2000万、9位)
12位	ドイツ語	1億	(1億、10位)

(『言語学百科事典』大修館より)

BIG3は別格として、フランス語はスペイン語、ロシア語に次ぐ6位にランクインしています。でもよく見てください。フランス語の場合、母語話者は公用語話者の1/3にすぎません（そのうちフランス人はたった6000万人）。逆にいえば、フランス語は、フランス本国以外で、はるかに多く

の人々に話されているのです。でも、なぜなのでしょう？

15世紀に始まる大航海時代以降、ポルトガル、スペインには後れをとったものの、フランスもまた積極的に海外進出を図りました。まずは16世紀から17世紀にかけて、インド、カリブ海、北アメリカ大陸に進出しました。新大陸を北上し、たどり着いた地をカナダと名付けたのもフランス人で、その一部（ケベック）では、いまでもフランス語を常用し、カナダ本国からの独立運動も活発です。

次いで19世紀後半から20世紀前半には、北アフリカ、西アフリカ、インド洋、太平洋、インドシナが、次々とフランスの植民地となりました。植民地支配はフランスの負の歴史ですが、結果として、特にアフリカ大陸の国々にフランス語が残されたことは重要です。若いアフリカがいずれ「世界の工場」となる時が来れば、そこで用いられているフランス語の重要性はますます増すことでしょう（南米のスペイン語も同様です）。

【フランス語の今】

以上のような歴史的経緯から、現在、フランス語は29の国で公用語であり、部分的話者を含めると、世界の50以上の国や地域で用いられています。これは英語の約80の国・地域に次ぐものです。国際共通語の地位を英語に奪われたことは残念ですが、それでもこれらの国・地域は「フランコフォニー（フランス語圏）」の旗印のもと、2年に一度サミットを開催し、互いに協調を強めています。以下はフランス語通用圏の一部です。

ヨーロッパ：フランス、ベルギー、スイス、モナコ

アフリカ：カメルーン、コートジボワール、セネガル、アルジェリア、チュニジア、モロッコ

北・中米：カナダ東部、ルイジアナ、ハイチ、マルティニーク、グアドループ

太平洋：ニューカレドニア、バヌアツ、仏領ポリネシア

アジア：レバノン（以前はベトナム、ラオス、カンボジアでもフランス語が通用していた）

加えて、フランスは、ドイツと並んで欧州連合（EU）のリーダーでもあり、フランス語の重要性は増しこそすれ、減ずることはありません。その証拠に、フランス語学習者の数は、これもまた英語に次ぐ第2位につけています。ですから、フランス語を学ぶということは、フランス本国だけでなく、世界中に散らばるフランス語圏の国々にも通ずることなのです。

【フランス語の授業について】

「聴き・話し・読み・書く」という4技能の実践練習を通して、フランス語の基礎を学びます。そのためには何よりも間違いを恐れない積極的な授業参加が必要です。初めて学ぶ言葉なので、始めのうちは間違えるのは当たり前です。堂々と大きな声で間違ってください。そうしないと、どこが間違っているのか教師に伝わらず、結局、間違いを直すことができません。

とはいえ、フランス語の規則を自ら意識的に定着させようと努めなければ、いつまでたっても進歩しません。語学は積み重ねなので、間違いつつも基本はしっかり押さえながら、忍耐強い反復練習を通して一步一步着実に進んでいくことが肝心です。

さて、夜間主コースのフランス語はいわゆる「I」しかありません。もっと学びたい人には不満かも知れませんが、その場合、60単位まで認められている昼間コース科目の履修制度を利用して、昼間コースの「フランス語II」や「フランス語上級」を履修することを考えてみてください。そうすれば、昼間コースの方で案内している短期派遣留学や、協定校のポール・セザンヌ/エクス・マルセイユ第三大学での長期交換留学に参加することも可能になります。また実用フランス語技能検定試験への挑戦も視野に入ってくることでしょう。実際、皆さんの先輩たちの中にも、フランス語の学習を続け、フランス語圏に留学した学生もいます。次はあなたの番となることを期待します。

夜間主	汉语
コース	中国語

【中国、日本、中国語】

中国は人口約 14 億人、国土面積は日本の約 25 倍をもつ隣国です。2010 年に GDP は世界第 2 位となり、圧倒的な経済規模を持つ超大国へと成長しました。そして日本にとって最大の貿易相手国でもあり、数多くの日本企業が中国に工場やオフィスを構えています。日本を訪れる外国人観光客を見ても、中国圏からの旅行者は半数以上を占めています。グローバル化が進み国境の壁が低くなるほど、距離の近さが強い影響力をもつようです。

世界地図を眺めてみればわかるように、中国の国域はヨーロッパに匹敵する広がりをもっています。こうした広大な地域において、膨大な人々の間で共通語として使われているのが、現代中国語です。この現代中国語は、学校教育で用いられ、テレビやビジネスなど公共の場で使われていますので、中国のみならず世界各国に暮らす華僑の間でも広く話されているわけです。

【中国語の学習について】

言語の面では、私たちが用いている漢字はごく一部の文字を除いて、すべて中国語より取り入れたものです。今では意識することさえないかもしれませんが、日本で用いている漢字・漢語の多くは、近代以前の文章語（漢文）に基づいています。一方、現在中国で日常的に話されている現代中国語は、近代以降に言文一致運動を経て生まれた、話し言葉が中心になっています。

中国で使用される漢字は簡略化された「簡体字」で、日本の漢字とは字体の異なるものがあります。たとえば「漢字」の「漢」は“汉”となります。とはいえ簡体字の多くは、字形の近さによって日本語から意味を推測することができますし、発音も日本語の音読みに近いものが少なくありません。ただし、中国語には漢字 1 字ごとに日本語にはないトーン（声調）があり、高低アクセントが付いているという特徴があります。声調は 4 種類あり、同じ音節であっても声調の種類が異なるだけで全く意味の異なる単語になりますから、発音の練習を十分におこなう必要はあります。

しかし中国語学習者にとっては幸運なことに、今の日

本はかつてないほど中国語の学習環境が整っています。今や中国系の人々を見かけない日の方が少ないほどですし、本校の留学生も半数以上が中国人です。観光地やアルバイト先、通学の電車で生の中国語を耳にすることも珍しくありません。好むと好まざるに関わらず、今や中国語は日本で使う必要性のきわめて高い言語であると言えるでしょう。



【授業の紹介】

本学の夜間主コースでは中国語 I を 1 クラス開講しています。中国語を履修することとなった学生の皆さんは、このクラスに所属して週 2 回の授業を受けることとなります。授業は中国人と日本人の教員が週 1 回ずつ担当します。ネイティブ教員の授業では耳と口を鍛えてコミュニケーション能力を高め、日本人教員は日本人学習者の苦手な点を適切に指導します。履修単位は前期と後期に分かれていますが、基本的に全員前期と同じクラスで履修してもらいます。ただし、前期の単位を取得できなかった場合は、他の外国語と同様に後期の履修は認められませんから注意してください。

次に、一般的な授業の内容について紹介しましょう。開講当初は各クラスとも発音の訓練を中心とした授業となります。発音練習の繰り返しは退屈に感じるかも知れませんが、中国語の学習は「発音に始まり発音に終わる」と言われています。特に最初から声調を正しく発音するのは難しいものですが、教員や CD の発音を聞き、口を大きく開けて何度も練習してください。そうすれば必ずきちんと通じる中国語を話せるようになるでしょう。発音ができるようになったら基本文型を学び、会話の練習を行ないます。中国語を用いた教員との応答練習はもちろん、学生同士のペアやグループで練習を行なうこともあります。

このように授業では学生の皆さんが練習することを重視

しますから、出来るだけ欠席しないようにしてください。そして積極的に教室で発音や会話の練習に取り組んでください。また、分からないことや疑問に思うことがあればどんどん質問してください。皆さんの能動的な学習意欲が、上達を早める原動力となるでしょう。

そして中国語Ⅰの履修を終えれば、昼間に開講されている中国語Ⅱを履修することが出来ます。中国語Ⅱでは、中国語Ⅰで習得した基礎をもとに、より実践的な会話力や読解力、聞き取りの能力の向上がはかられます。中国語の多様な表現や、中国語特有の考え方を学び、より深く中国を理解し、中国人と交流できるよう、学習の積み重ねが進められます。

そして皆さんは本学において中国語上級まで履修することが出来るわけですが、この中国語上級では、更に実践的で実用的な中国語能力の習得を目指しています。具体的には中国の人々との高度な会話能力の育成を目標に置き、教員と学生の皆さんとの交流をより密にして授業を進めています。この上級中国語で目指している能力を身に付ければ、中国に長期滞在して仕事や学問を進めていく道が開けることでしょう。

なお、本学は東北財経大学（大連）と蘭州大学（甘粛省）と提携を結んでおり、毎年留学生の派遣や交換を行なっています。また、台中科技大学（台湾）とも交流があります。皆さんには短期留学と長期留学の制度がありますから、日本の教室内で勉強するだけでなく、海外に飛び出して学生時代にしかできない体験に挑戦してみてください。初めに書いた通り、いま中国は日本に最も「近い」外国です。費用も安いですし、気軽においしいものが食べられます。現地で会話できるようがんばってください。

このほかに言語センターのマルチメディアライブラリには中国語語学図書（NHK 中国語講座、中国語検定対策ほか）とCD、中国映画・ドラマのDVDなども備えていますから、活用して楽しく勉強してください。

【中国語の使い方】

授業で中国語の学習を始めることができたなら、それを契機として中国語を様々な方法で活用してください。語学は、その言語を勉強することだけが目的ではありません。習得した語学力を駆使して、何かを実現することに意味があります。仕事に生かすにせよ、旅行をするにせよ、それ

ぞれ違った目標があるはずで、単位取得だけが目標の人には、授業は退屈な時間になることでしょう。より充実した時間になるよう、常に目的を考えながら勉強を進めて欲しいと思います。

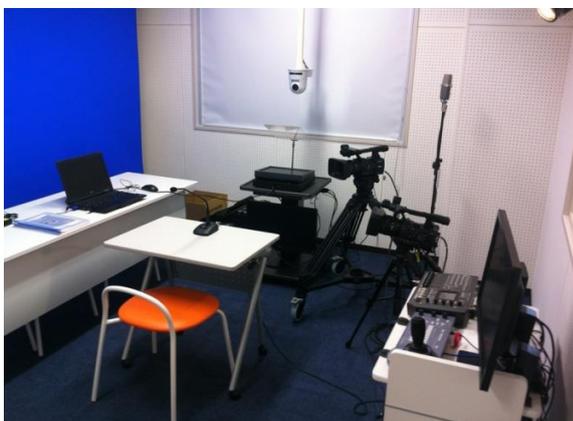
前に述べたように、いまの日本は中国語との接点にあふれています。課外活動やアルバイトの時に、習った中国語で会話をする学生も今や少なくありません。

このほか、中国語履修者から志願を募り、地域貢献活動も行なっています。以前には中国語で「小樽観光案内」を作ったり、小樽市立文学館を中国語化するプロジェクトをしたりしました。現在、小樽総合博物館を中国語化するプロジェクトに取り組んでいます。中国語を活用できるよう、教員や中国人留学生と一緒に楽しくチャレンジしてくれる人を待っています。

また、中国語圏では動画が積極的にインターネットで公開されており、映画・M T V はもちろんのこと、テレビになると録画のほかに、生放送でほとんどの番組を見ることができます。こうした絶好の環境を利用し、自分の興味のある分野を見つけて中国語を勉強してください。そして2年間取り組むことになる外国語を、将来に結びつけてもらいたいと思います。中国のことをすべて好きになれと言っているわけではありません。中国でも日本でも好きなどころ、嫌いなところがあって当たり前です。身近で文字が似ていても、考え方で近いわけではありません。だからこそ中国語の学習を通じて、中国をより深く理解してもらいたいと思います。なぜなら各民族の考え方は言葉にこそよく表れているからです。



【江南貢院】中国南京市秦淮区の夫子廟地区にある建物。宋朝により建築された科挙の試験場で、最盛期には中国最大の科挙試験場となりました。大きな赤い提灯には、左から順に「探花」（成績三位）、「状元」（首席）、「榜眼」（成績二位）、と書いてあります。



▲デジタルタスク室



▲BL教室

小樽商科大学言語センター

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号（2号館4階）

言語センター事務室 TEL : 0134-27-5280 FAX : 0134-27-5282

リサーチルーム / デジタルタスク室 TEL : 0134-27-5439